学校だより
とき・あかし錦城
2020年（令和2年）
5月13日（第52号）
明石市立錦城中学校

きっと同じ気持ち

……　みえないことづてを　……

学校長　永田　浩史（ながた　ひろし）

あいたくて

工藤　直子

だれかに　あいたくて
なにかに　あいたくて
生まれてきた
そんな気がするのだけれど

それが　だれなのか　なになのか
あえるのは　いつなのか
おつかいの　とちゅうで
迷ってしまった子どもみたい
とほうに　くれている

それでも　手のなかに
みえないことづてを
にぎりしめているような気がするから
それを手わたさなくちゃ
だから
あいたくて

▼臨時休校が５月31日（日）まで延長になり、４月の始業式、入学式からほぼ１か月が過ぎました。この間、世界でも日本でも様々な情報が飛び交い、感染者数が日々テレビの画面に映し出されます。毎日になると本当に疲れてしまいます。しかし、その疲れる、つらい毎日を医療関係の方々はリスクと隣り合わせで働いておられます。そんな状況の人たちに対して心から感謝し、応援しなくてはと感じます。

▼工藤直子さんの詩を紹介しました。工藤さんといえば、小学校2年生の国語科で「のはらうた」を勉強したことを覚えていますか？「おれはかまきり……」。上の「あいたくて」という詩は詩集「あ・い・た・く・て」（大日本図書）の中から掲載したもの。「みえないことづてを　にぎりしめているような気がするから　それをてわたさなくちゃ」という表現が何だかいいですね。このような状況では、みんな同じ気持ちを持ちながら毎日を過ごしているのではないかなと感じます。▼心配なこと、相談したいことなどがあれば、学校に電話してください。▼錦城中学校HPに様々な情報を配信しています。学習支援サイト、動画配信（PW必要）など、家庭学習の参考にしてみましょう。▼学校再開の日まで、今しばらく自宅で過ごしましょう。「早寝・早起き・朝ごはん」生活のリズムを整えて、「日に日に新た」です。

卯の花をこぼさずはいれ豆腐売　正岡子規

一八九二（明治二五年）五月一二日

卯

ボウ、う

●馬の口にふくませるくつわが、口の両側に出ている様子にかたどる。十二支の四番目、兎。時刻では午前六時（五時から七時）方位では東。

今後の予定等でお伝えすること【重要】 国、県、市の状況により変更もあります。

※4/28 に明石市教育委員会より配信されたすぐメールの内容を含んでいます。

(1)健康観察　　引き続き、各家庭で健康観察を続けてください。
(2)休校期間　　令和2年5月31日（日）まで
(3)1学期　　令和2年8月7日（金）まで
(4)夏季休業　　令和2年8月8日（土）～8月16日（日）
(5)2学期　　令和2年8月17日（月）～
(6)プールの授業　今年度は中止　（3年生は2年生次までに履修済み、1，2年生は来年度以降に履修予定）　※水着販売もありません。
(7)マスクの配布　　文部科学省より布マスクが1枚届きました。いくつかの市内小中学校では配送されたマスクの数が不足しており、市内統一で当面の間、児童・生徒への配布を見合わせています。
(8)学習支援　　「みんなの学習クラブ」の活用（個人ID、パスワードが必要です）
(9)郵便による学習保障と相談支援について

◆生徒用相談用紙、保護者アンケート、ネット環境調査、６月予定、各種たより等を郵送します。

学校→ご家庭	ご家庭→学校（返信）	返信用封筒の重さ
5 月 13 日（水）発送	返信①5/18　　返信②5/25	各回　100ｇまで
5 月 26 日（火）発送	再開日に持参してください	

▼返信封筒は100gまでとなります。お手数ですが、重さを量り、100g以内で投函ください。
▼2回目の返信用封筒は5月22日（金）までに各家庭にポストインする予定です。
▼お子様の体調や学習に関することで、ご相談や質問等がありましたらご連絡ください。

とき・あかし５２　こどもたちへ/何もかもちがう春だけれど

▼5月5日は「こどもの日」この日の神戸新聞社説はいつもと違っていました。ひらがなが多くて漢字にはルビ（ふりがな）がふってあるのです。気づいた方もおられるかも知れません。これまでの経験で「社説」を子供向けにしてルビをふった新聞をあまり見たことがなかったもので。▼学校が休校中の児童や生徒は、世界で15億人をこえ、子どもも大人もまさに「だれも知らない世界」を生きていると始まります。▼話題は二つ。一つ目は「9月入学」をめぐる議論について。オンラインでの授業をしている学校はわずかであり、課題が山積みと言っています。▼二つ目は「正義」について。兵庫県内のある町で、公園の近くに「自粛　特に県外から」と書かれた看板が貼られたと書いてありました。書いた人は「感染から自分を守るために声を上げるため」と話しています。公園には他府県ナンバーの車が来て、BBQや釣りをする人がいて腹を立てていました。▼しかし、公共の場に無断で張り紙をすることは県の条例で禁止されていて、その町の担当者は「気持ちは分かるが、ルールは守ってほしい」と看板を撤去しました。▼その人は自分がしたことを「正しい」と思っているのかもしれません。しかし、その地域には大阪府から車で仕事に通っている人も多く、「車のナンバーだけで攻撃するのはどうか」「他人の背景を思う力をもってほしい」という意見もあります。大切な視点ではないでしょうか。▼正義が差別につながるかもしれない。感染者や医療関係者に対して心ない言葉をぶつける。病気にかかった人や困っている人の身になって考えることができなければ、感染症や災害にもろい社会になる。それはとても危険です。大人と子どもも力を合わせて乗り越えて行きたいと思います。と結ばれています。